

エコニュース さって



第 7 1 号
平成 29 年 9 月 1 日
さって市民環境ネット
TEL 48-0331

平成29年度幸手小学校環境出前講座

報告：久保田

開催日：平成29年5月26日（金） 10:20～12:20

参加メンバー：宮田、藤城、澤村、高久、福田、坂本、小谷、久保田

テーマ：『身近な環境の生き物を調べよう』

『身近な環境の生き物を調べよう』のテーマで、幸手小学校4年生を対象に「ハウネンエビの観察」「草花の観察」を行う環境出前講座を開いて、今年で何年になるのだろうか？ 草花の観察に使うドクダミ、ヘビイチゴ、オオバコ、タンポポを集めるのはそれほど気をつかわない（タンポポのうち、在来種—日本産であるカントウタンポポは、数少ない生育場所を知らないと採ることはできないので、ある意味採取が難しい）が、前日までに十分な数のハウネンエビを捕獲するには、毎年のことながら気をもませる。例年に比べ、この時期発生量の少なかった今年は、大量の捕獲ができなかったが、それでも4つのミルソーにそれぞれ10匹以上用意することができ、観察には十分の数が用意できた。

4年生2クラスの児童、例年より人数の多い56名を、クラス毎4つの班に分け、「身近な草花の観察」の部屋では、4台の机にそれぞれ、タンポポ、オオバコ、ドクダミ、ヘビイチゴを、ルーペや双眼実体顕微鏡をのぞいて観察できるように設定。「ハウネンエビの観察」の部屋では、4台の机にハウネンエビを入れたミルソーを置き、横からハウネンエビの泳ぐさまを見られるように、またルーペを使って観察できるように。さらにもう一つの机には、小さなシャーレを用意し、中にハウネンエビを入れ、双眼実体顕微鏡でハウネンエビの体の中で動く卵を観察できるように用意して、一つの班が一つの机を囲んで観察できるようにした。



ハウネンエビの泳ぎ方の観察

班ごとの観察を始める前、全員にハウネンエビを知っているかどうか、聞いたところ約半数の児童が手を上げた。これではハウネンエビを見て、感動があまりないかと思ったが、実際ミルソーの中の、間近に泳ぐハウネンエビを横から見て、オスとメスとの区別、上を向いて泳ぎ、卵のあるなし、短い寿命など、詳しい説明を聞きながら観察する顔は、驚きで目が輝いていた。

草花の観察では、双眼実体顕微鏡によりタンポポの綿毛の先の種、ヘビイチゴの実、ドクダミの花の雄しべ・めしべ、オオバコの花のクローズアップに驚き、ドクダミの葉っぱをちぎったにおいに顔をしかめ、さまざまな新しい発見にはしゃいでいた（一人の児童がドクダミの葉

を口に入れ噛んでしまい、にがそうな顔をしていた。食べるなどと言わないが、野草を口に入れるときは洗ってからと、注意はしたが）。

おわりにまた、全員が一部屋に集まり、ハウネンエビの一生のビデオ、身近な環境の生き物や、生態系ピラミッドの話をスライドで行い、最後に児童の感想を聞いた。「ハウネンエビについて、いろいろ知ることができて良かった」「ドクダミがお茶になったり、傷に効くことを知りました」「クローバーをシロツメクサと呼ぶことは知りませんでした」「虫が虫を食べる弱肉強食の生態系を知りました」「ドクダミは臭いけど、薬になることを知りました」など、手を上げて元気よく答えてくれた。



顕微鏡でヘイゴの実を観察している子供たち

これも恒例になったが、授業を終えてからの児童たちといっしょの給食。われわれさって市民環境ネットのメンバーの楽しみでもあるが、児童たちも楽しんでくれたようだ。メンバーひとり一人が、それぞれ児童のグループの中で給食をいただきながらいろいろ話をする。児童からの質問や、児童への質問のやりとりなど、物怖じしない児童との会話に、メンバーそれぞれがこの給食の時間を楽しんだと思う。

南公民館「みどりのカーテン」

ゴーヤ担当；唐澤、後上、高久、福田、坂本

毎年恒例の南公民館「みどりのカーテン」を今年も実施します。5月22日（月）ゴーヤの苗を植えました。今年のゴーヤの苗は色々な種類を確保しました。アップルゴーヤ（苦味が少なく丸い形、生食可能）、ごろごろゴーヤ（収穫量が多い）、ちゅらゴーヤ（接ぎ木で成長が早く、収穫量が多い）、エコゴーヤ（素早くグリーンカーテンになる）、島さんご（アバシともいう、太く短い）、中長レイシ（島さんごと大長レイシの中間）、大長レイシ（鹿児島産、細長く味は苦い）など、全部で26本です。成長するのがとても楽しみです。

6月1日（木）植えてから10日がたちました。成長が見られず。葉が小さく色も黄緑色です。でも、培養土に腐葉土を混ぜ、成長には十分な環境で植えたので、もう少し待てばきっと成長するだろうと思っていました。

6月16日（木）植えてから25日がたちました。ゴーヤの成長が悪く、葉が黄色になっている。このままでは、みどりのカーテンなどできそうにない。これがみんなの共通認識となりました。みんなで相談しましたが、どうすればいいか分かりません。ジョイフルの植物担当の人に相談し、苗の取替えとともに土も取り替えることにしました。



6月16日 葉が黄色くなったゴーヤ

6 月 28 日（水）いよいよ、取替え作業です。苗は唐澤さんの苗です。土はジョイフルでお勧めの培養土を買いました。軽石も水はけをよくするためプランターに入れました。前は、プランターに腐葉土を入れ、直後に苗を植えたため熱がこもってしまった。これが間違いだったのかもしれない。今回の取替え作業によって、上手くいくのだろうか？



8 月 19 日 成長したゴーヤの様子

その後 7 月に入り、ゴーヤ周辺の草刈、追肥をおこないました。全体的に元気になってきました。8 月 19 日（土）にはゴーヤの長さが 4 メートル以上になり、みどりのカーテンの完成となりました。何とか初期の目標を達成することができました。

8 月 28 日 15:00（晴天、西日強し）ゴーヤが太陽光を防ぎ、どのくらい温度を下げるか測定してみました。ゴーヤの葉が太陽光の当たる部分の温度は 36 度です。ゴーヤが太陽光を遮った床の部分の温度は 35 度です。違いはさほどないことが分かりました。測定しての感想は、直射日光を浴びると暑苦しくてがまんができません。みどりの影に入ると気分的にほっとします。心地よさを感じます。ゴーヤのカーテン効用とは、温度の差よりも心地よさであると実感しました。緑色と心地よさが、安らぎをもたらしてくれます。

終わりに、南公民館の方には毎年のことですが、毎日水遣りをしていただき、大変お世話になりました。

第 145 回腐葉土と野菜づくりの会

報告：澤村（以降、同じ）

10 月 23 日（日）午前 10 時開始、天気；曇り時々晴れ、出席人数；会員 20 名＋幸手社会福祉協議会・彩の国ボランティア体験プログラム事業からの参加者 6 名（中学生 3 名、高校生 2 名）＋親子（孫）8 名の計 34 名。

今回の作業：今年度第一基腐葉土作製、サツマイモ掘り、昨年度第四基熟成腐葉土と強化鶏ふんなどを畑への散布。

彩の国ボランティア体験プログラム事業からの参加者には、落ち葉収集と仕込みを行い、腐葉土作製による有機栽培の一環を趣旨に、サツマイモ掘りは土に触れながら収穫を楽しむことで自然環境配慮を学んで貰いました。

第一基腐葉土作製は、既に環境課に収集して頂いた落ち葉とボランティア体験プログラム事業からの参加者が中心となり桜泉園の敷地内で収集した落ち葉を踏み込み、米ぬか、強化鶏ふん、水を挟んで散布しながら積層しました。

サツマイモ掘りは、全員参加で、先ずカッターでつるを切ってからスコップで掘り起してから、手作業で楽しみながらイモを掘り出しました。ボランティア体験事業参加者、親子（孫）参加者は非常に楽しそうでした。親子（孫）参加者は来年も参加したいと言われていました。

なお、今年は水平植えを行ったので大きいサイズも散見されましたが中サイズが多かったようでした。

第四基熟成腐葉土と強化鶏ふん（ジョイフル本田で購入）、少量の化成肥料の散布は、次回のタマネギ植え前の土壌改良、元肥として実施しました。

最後にボランティア体験事業参加者に感想を伺った結果、大変楽しく自然に触れることができ、また環境配慮の勉強できたとの応えが返ってきて、今回の開催を主催して良かったと自画自賛してしまいました。また、幸手社協のボランティア体験プログラム事業活動全体報告会で、大変好評であったとの報告がありました。



中学生、高校生とともに落ち葉収集



親、子、孫の3代の楽しいサツマイモ掘り

第 1 4 6 回腐葉土と野菜づくりの会

11月23日（水）9時開始、天気；うす曇り、出席者人数；17名。

今回の作業内容：第一基腐葉土への切込み、新井技術顧問から購入したタマネギ苗 1,000 本植え、大根は葉を食べるために少し収穫には早めでしたが大きいのを抜き 3 本ずつ頒布しました（柔らかく甘みがあり、美味しかったとの報告あり）。今年からタマネギ植えには孔付きマルチフィルムを張った後、風でフィルムが剥がれないようにUピンで止めました。

第 1 4 7 回腐葉土と野菜づくりの会

12月18日（日）10時開始、天気；晴、出席人数；20名。

今回の作業内容：第一基腐葉土の1回目の切返しと第二基を作製しました。タマネギの追肥に化成肥料 15 粒程度行いました。ダイコンは大中小全てを収穫しました（8 本／人）。

第 1 4 8 回腐葉土と野菜づくりの会

1月15日（日）10時開始、天気；晴、出席人数；16名。

今回の作業内容：北西風の厳寒の中、第一基腐葉土が発酵で湯気がたっていて汗をかきながらの2回目の切返し、B & G や野球グラウンドの付近の林から集めた落ち葉を強化鶏ふんと一緒に第二基への切り込みを行いました。

第 1 4 9 回腐葉土と野菜づくりの会

2月19日（日）10時開始、天気；晴、立春を過ぎたが厳寒、出席人数；16名

今回の作業内容：腐葉土第一基、第二基の切返しを行いました。各位の今年の種ジャガイモ植付け用に残してあった熟成腐葉土の頒布と、その一部を自分達の種ジャガイモ植付け用地に強化鶏ふんと一緒に散布しました。

【会員募集中！】環境保全活動と一緒にやっていただく方を募集しております。是非、貴方も参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕★問合わせ先；久保田 修（代表）まで TEL 0480-42-1264

幸手の環境活動グループ：幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、倉松探検隊、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく、いきがい・はなみずきの会（いきがい大学伊奈学園20期）